

<第 21 回社会福祉研究交流集会 in 埼玉 参加のお願い>

国民生活はかつてないほど厳しい状態に追い込まれています。「税と社会保障の一体改革」に象徴されるように社会保障の公的責任放棄、国民負担の強化と税による収奪が表裏一体のものとして進められています。

同時に TPP 交渉でしだいに明らかになってきた米国中心の経済政策、社会保障、社会保険の私保険化、自己責任論の強制の動きと連動していると見ることができます。

さらには憲法九条を実質改憲し、日本を戦前のような世の中にしようとする動きと一体のものと考えることができます。

ここ数年の国民、労働者の置かれている状況、社会保障政策の後退はそうした政策と根を一にするものです。

本研究交流集会では、(1)そうした状態を日々の生活、実践の中で明らかにし、(2)その中でもいのちと生活、健康を守るために頑張っている実践と運動を再確認し、(3)そして私たちが望んでいる社会保障や社会のあり方について考え、実践と、運動、研究を展望したいと考えています。

私たち国民の困難は個々人に現れますが、問題を全体的、総合的にとらえることによって、自分ひとりの苦しみではないことを知り、その理由や原因がどこから来ているのかを把握することで、解決への道筋を明らかにすることができ、希望を持つことができます。

希望を持つことによって私たちが求めている社会のあり方を探り、実践の方法として協同、協力のもつ意味を確認でき、自らの力にすることができるのではないのでしょうか。

総合的な視野を持ち、希望と展望を持ち、要求と現場から作り上げる社会保障・社会福祉を实践し、足元から（地域から）連帯、協同、協力を作り上げていきましょう。